100億宣言　大阪冶金興業株式会社（金属熱加工業）

大阪冶金興業株式会社
Osaka Yakin Kogyo Co., Ltd.

主要製造拠点である三木工場

〇本社所在地：大阪市東淀川区瑞光4-4-28
〇主要製造拠点：兵庫県三木市別所巴25
〇事業概要：金属熱処理、表面処理
粉末冶金（MIM、積層造形）

〇常時使用する従業員：148名（25年4月期）
〇現在の売上高： 22億円（ 25年3月期）
〇法人番号：7120001053367
〇Web：https://www.osakayakin.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ

代表取締役
寺内　俊太郎

金属熱加工技術で社会に貢献し続ける

第二次世界大戦の直前、1941年に戦闘機エンジン部品の熱処理で創業。
以来、日本で初めての真空熱処理技術や粉末金属の加工技術を柱に、
エネルギー・航空宇宙・医療の分野で社会に貢献をしてきた。
この分野が次世代に向け大きな転換を迎えていく中、
大阪冶金興業は、創業来の基軸である「金属熱加工」で社会に貢献し続ける。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2034年度（10年後）に売上100億円達成を目指す。
既存事業は高効率火力発電や次世代核融合発電の加速に伴い、年率換算+3%で成長。加えて、新たな技術の社会実装として、①軽量・高強度の航空機エンジン部品、②患者負担の少ない医療用インプラントの開発を進め、事業の拡大を目指していく。

課題

最重要課題は、生産設備を導入するスペースの確保。
主要製造拠点である三木工場には増産余力がなく、既存事業に供する設備を安定稼働させながら、旧設備の更新と新たな設備増強を進めるには、三木工場同等の生産拠点の確立が不可避。
技術開発は従来より進めている産学協働体制を加速させていく。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

既存事業は、永年のリレーションを基盤に持続的な成長が見込めるため、安定的な生産基盤を確保していく。
新たな技術の社会実装は、①環境配慮型の航空機エンジン開発は市場の急務であり、相応の市場が見込め、②患者負担の少ない小型・薄型かつ、術中後の感染リスクを抑えた抗菌機能を有する医療用インプラントのニーズも高まっている。
これらに応えるため、従来より進めてきた開発を加速し、製品化による技術の社会実装を目指していく。

実施体制

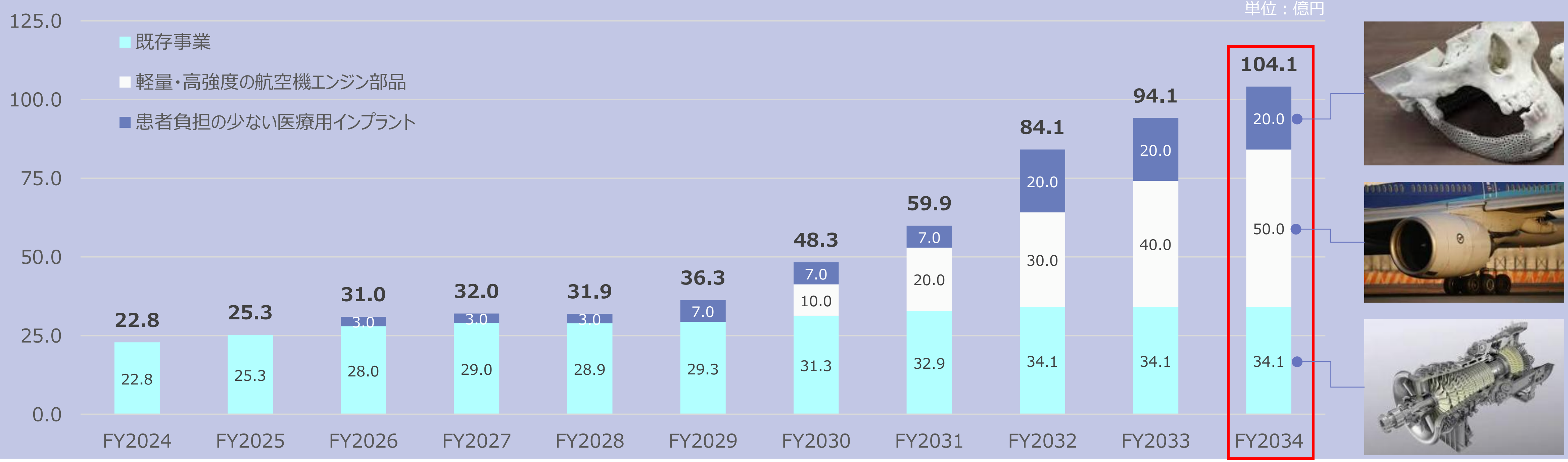
既存事業は新工場を立ち上げ、増産に対応できる設備の導入を進める。
新たな技術の社会実装は、①国家プロジェクト(SIPⅡ)にて、大企業・大学と進めてきた開発体制を継続しつつ、日本初の機能を有する設備を導入し製品化を加速、②国家プロジェクト(AMED)の支援も受けつつ、産学協働で進めている開発体制を継続しつつ、医療認証取得を加速する体制を構築する。

※本宣言は企業自身がその責任において売上高１００億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

大阪冶金興業株式会社（金属熱加工業）

売上高100億円実現の目標と課題

- ✓ 当社は1941年に戦闘機エンジンの熱処理を事業とし創業、以来、日本で初めて導入した真空熱処理技術により火力・原子力発電に関係する耐熱部品の熱処理に従事し、1990年代からは、当時では最先端の金属粉末を使用した粉末冶金技術を確立し航空・宇宙に関する製品を製造、2010年代には、金属3Dプリンターを使用した技術の社会実装として、医療用インプラント(人工骨)の製品化に成功した。これらの既存事業では、永年の技術基盤を活かし、核融合発電に関する国際プロジェクトである「ITER」にも参画するなど、安定的な成長を見込んでいる。
- ✓ 加えて、更なる技術発展として、①軽量・高強度の航空機エンジン部品、②患者負担の少ない医療用インプラント(人工骨)の研究開発を進めてきた。
  - ①：軽量なチタンアルミ(TiAl)を素材とし、高強度を実現する新たな熱加工を施した航空機用エンジンブレードの開発を、国家プロジェクトのもと進めてきた
2025年度には新たな熱処理を実現するための装置を日本で初めて導入し、その研究開発を加速させる
  - ②：口腔外科領域では、人工骨を使用した手術において感染リスクがあることが課題とされており、感染リスクを低減させるインプラントを開発している
また、人工骨に使用される金属のチタン合金の特性を最大限に引き出す技術を確立することで、人工骨を小型・薄型化することで患者負担軽減を目指している
- ✓ これらにより、2034年に売上高100億円達成を目指すが、課題は生産基盤の確保。そのために、新工場を立ち上げ、既存事業に必要な設備の増設を進めつつ、新事業に必要な設備の設置スペースを前広に確保していく。



○法人番号：7120001053367